

〈第1部〉 知っておきたい認知症の基礎知識

〈第2部〉 高齢者てんかんについて

【第1部：17:00～】

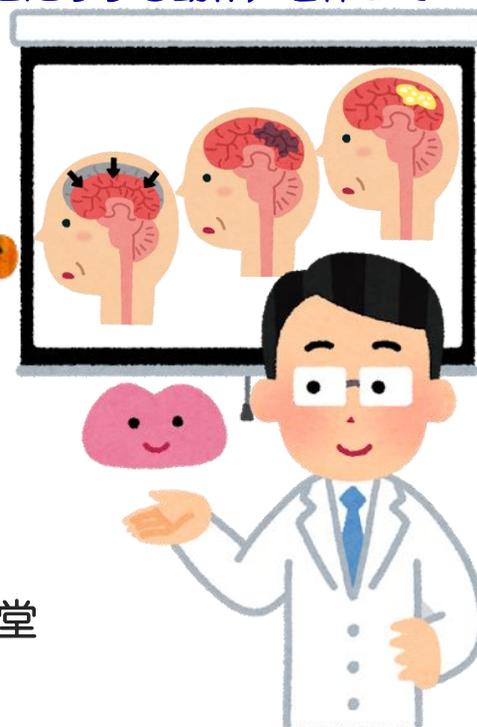
近年、認知症の患者さんは増え続けています。厚生労働省によると、2025年には700万人を超えるとされ、65歳以上の5人に1人が認知症になるといわれています。認知症は、ただもの忘れの悪化ではなく、怒りやすくなったりせん妄や幻覚などの症状が進行したりするため、早期受診、早期診断が非常に重要です。

今回、認知症について、高齢診療科 准教授 清水 聡一郎 医師が解説いたします。

【第2部：17:45頃～】

てんかんは子どもがかかる病気と思われがちですが、ご高齢になって初めててんかんを発症する方も少なくありません。また、てんかんはけいれんするだけでなく、さまざまな発作症状があります。しばしば、ご高齢の方では手足のけいれんが見られず、無意識の動作（口をもぐもぐさせたり、手をもぞもぞさせたりする動作）を伴って一時的にご本人の反応が悪くなったりすることがあり、認知症になったとご家族が心配されることもあります。

今回、高齢者てんかんについて、脳神経内科 講師 加藤 陽久 医師が解説いたします。



■日 時：2019年10月30日（水）

開場 16：30

開演 17：00～

閉演 18：30（予定）

■会 場：東京医科大学病院 本館9階 臨床講堂  
（最寄駅：丸ノ内線 西新宿駅）

■申し込み：事前の申し込みは不要。当日は会場に直接お越しください。

■お問合せ：東京医科大学病院 総務課 ☎ 03-3342-6111(代)

※尚、座席数に限りがございます（360席）。満席の場合は入場をお断りする場合がございますので予めご了承ください。

共催：東京医科大学

東京医科大学病院 生涯教育センター

東京医科大学病院 総合相談・支援センター

公益財団法人 東京医科大学がん研究事業団

東京医専